

松平東照宮

松平東照宮には、徳川家康（1543-1616）と松平親氏（伝 1394 年没）が祀られている。家康は、松平家の第 9 代当主であり、1603 年から 1867 年まで日本を支配した徳川幕府の創設者である。彼の祖先である親氏は、初代の当主であった。神社の正式名称は「八幡神社松平東照宮」で、境内には松平家と武家の守護神である八幡も祀られている。

松平東照宮は、日本に 100 以上ある東照宮の一つである。最初の東照宮は家康の最初の墓がある静岡県の久能山にある久能山東照宮だった。ほとんどの東照宮は家康のみを祀っているが、松平東照宮は松平・徳川家の起源を強調するために親氏をも祀っている。

東照宮は松平家の子孫が 20 世紀まで住んでいた松平家の館跡に建っている。この地に東照宮が創建された 1619 年の前から八幡神を祀ったより古い神社があった。現在、八幡神社は敷地の北東隅にあり、東照宮は松平家の館が取り壊された後、1931 年に現在の場所に社殿を建てたものである。家康公没後 400 年を記念して、2015 年に本社が改修された。拝殿の天井には、豊田市長在住の漆芸家・安藤則義氏（1947 年生まれ）による 108 枚の草花が描かれている。